

Ⅰ 「主体的・対話的で深い学びにスポットライト！」
～北部地区授業実践事例集（中学校編）～

P.1 ～ P.14



©埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」



【中学校】国語

実践校【熊谷市立妻沼西中学校】【小鹿野町立小鹿野中学校】

主体的な学び

学習内容の意識化

【構成メモを基にした作文】



【作文の手引きと構成メモ】



【相互評価シート】



【教師の働きかけ】

教師は、「心が動いた『あのとき』」をテーマとし、構成メモを基に作文を書かせました。構成メモに、作文を書く上で身に付けさせたい資質・能力を記載し、この学習活動を通してどんな力を身に付けられるのか一目で分かるよう工夫しました。作文の読み合いの場面では、相互評価シートを基に伝えたいことや表現の適否等、視点を絞り、学習内容を明示した上で交流させ、その後、よりよい作文に向けた推敲の活動を位置付けました。

【生徒の変容】

「誰に・何を・何のために」が明確だったので、学びに必然性が生まれていました。互いの作文をよりよくするために、助言や感想を伝え、主体的に学ぼうとする生徒の姿が見られました。

対話的な学び

資料の活用



【教師の働きかけ】

『挨拶』（石垣りん）という詩で、作者が伝えたいことを受け取り、自分の考えをまとめる場面において、教師は現代社会の状況と重ね合わせながらより効果的に作者の思いを伝えるために3つの写真を提示しました。見る人に自分の考えを伝えるには、どの写真を選ぶのかを考え、グループで交流させてから、全体で共有しました。

【生徒の変容】

写真を選んだ根拠や写真が表現しているものをつなぎ合わせて考えることで、作者の思いを踏まえた現代社会に生きる人へのメッセージをまとめることができました。また、同じ詩でも選ぶ写真によって様々な視点があることに気付く生徒の姿が見られました。



【中学校】社会

実践校【熊谷市立荒川中学校】【深谷立豊里中学校】

主体的な学び



【教師の働きかけ】

弥生時代の生活の変化について考える場面において、教師は、イラストや写真、具体物（土器）など複数の資料を提示し、縄文時代と比較できるようにしました。

資料から調べた事実を基に、本時の課題「弥生時代になって社会はどのように変化したのだろうか？」に迫ることができるよう、資料を提示する順序も工夫しました。

【生徒の変容】

「個人→グループ→全体」と調べた事実を共有することで、それらを基に生活や社会の変化を考える生徒の姿が見られました。具体的な事実を関連付けて、「稲作が伝わり、それぞれの蓄えによる身分の差が生まれた。」と課題に迫る生徒も見られました。

資料提示の工夫

対話的な学び



【教師の働きかけ】

京都が歴史的景観を守っていく必要性について議論する場面において、教師は、まず生徒に「発展を優先」「景観を守る」のどちらの立場かをネームプレートで可視化させました。次に、これまで調べたことを基にそれぞれの立場から意見を出し合わせました。

ネームプレートを途中で動かす学習場面を設定し、個々の変容も見えるようにしました。

【生徒の変容】

立場を明確にすることで、双方の意見を比較しながら議論を進める生徒の姿が見られました。「経済面から見ると…」「観光客にとっては…」「不便もあるけれど…」などの意見もあり、京都の取組について多面的・多角的に考える生徒の姿も見られました。

思考の明確化

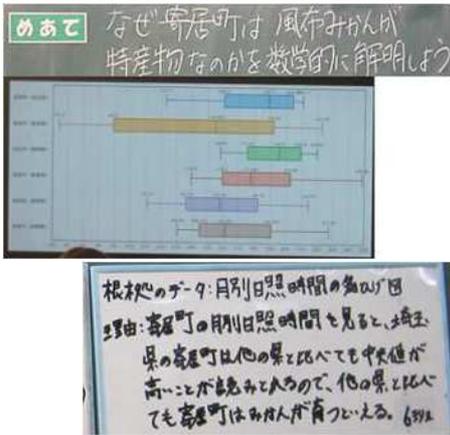


【中学校】数学

実践校【寄居町立寄居中学校】【深谷市立藤沢中学校】

主体的な学び

課題設定の工夫



【教師の働きかけ】

寄居町で「風布みかん」がよく育ち特産物となる理由を、総合的な学習の時間「寄居ふるさと探究学」と関連させながら「箱ひげ図とデータの活用」の単元で取り上げ、地域の特色を数学的に捉えさせていました。教師は、寄居町の気象データ(月別日照時間等)を箱ひげ図に表すだけでなく、みかんが特産物の県と、そうでない県の気象データも必要に応じて与え、それらの箱ひげ図を比較・分析させていました。

【生徒の変容】

『なぜ自分たちの地元で「みかん」がよく育つのか』をテーマにすることで、課題に興味をもち、自分ごととして捉え、主体的に話し合う生徒の姿が終始見られました。

※本授業は、令和8年1月20日に寄居町立男会中学校にて行われる「R7 北部(大里)地区算数数学教育研究協議会」に向けて先行実施されたものです。

対話的な学び

言語活動の充実



【教師の働きかけ】

一次関数の単元末に、学習のまとめとして表、式、グラフを相互に関連付けながら一次関数の特徴を伝え合う活動を取り入れていました。教師は表、式、グラフのいずれかが記された「関数トランプ」を作り、2枚のカードが同一の関数であるかを判断するゲーム(ババ抜き等)に取り組ませながら、表、式、グラフの相互関係の理解をより確かにさせていました。

【生徒の変容】

手元にある2枚のカードが同一の関数と言えるかどうかを、表、式、グラフの特徴を相互に関連付けて説明する生徒の姿が見られました。また、説明が適切でない場合は、その根拠を、聞き手側の生徒が説明側の生徒に伝えていました。繰り返し取り組むことで、生徒の表現は高まりを見せていました。



【中学校】理科

実践校【秩父市立荒川中学校】【美里町立美里中学校】

主体的な学び

目的意識の醸成



【教師の働きかけ】

教師は、課題設定の場面で生徒とのやりとりを通して、観察・実験の必要性に気付かせていました。さらに、目的を意識して観察・実験に取り組めるようにするために、仮説を立てたり、結果を予想したりする時間を十分に確保しました。得られた結果はグループで共有し、仮説や予想と照らし合わせて検討させ、最後にまとめと振り返りを自分の言葉で書かせていました。

【生徒の変容】

生徒は、身のまわりの現象を科学的な視点で捉えていました。また、自ら仮説を立てたり、結果の原因や考察について積極的に周囲と話し合ったりすることで、探究心を持ち、主体的に学習に取り組む態度を高める様子が見られました。

対話的な学び

場や時間の確保



【教師の働きかけ】

教師は実験の制限を設けず、「この実験をしなさい」「これはやめましょう」という言葉がけをしませんでした。結果の整理の場面では表にまとめるとよいことを確認し、考察する場面では個で思考させ、グループで共有する時間を十分に確保していました。また、「考察の書き方」を示すことにより、表現が苦手な生徒への配慮もなされていました。

【生徒の変容】

実験の制限を設けないことにより、生徒が対話を通して探究的な学びに向かうことができました。対話する場面では「自分の言葉」を大切にすることにより、結果を整理、分析・解釈し、根拠を示して表現しようとする生徒の姿が見られました。



【中学校】音楽

実践校【熊谷市立三尻中学校】【熊谷市立中条中学校】

主体的な学び



【教師の働きかけ】

箏の各部の名称を理解し、基本的な奏法を身に付ける場面において、教師は、振り返りシートを活用し、生徒が主体的に練習や評価を行える環境を整えていました。

ペアで交互に楽器を演奏する際、演奏している生徒に対してもう一方の生徒が姿勢や奏法の正確さを確認し、そのよさを認めたり的確な助言をしたりするように促していました。

【生徒の変容】

振り返りシートにある正しい姿勢や弦の弾き方の項目を協力して確認することで、生徒は自分たちの演奏のよさや改善点を客観的に自覚しやすくなり、互いに学び合いながら主体的に技能向上に取り組む姿が見られました。

学習の自覚化

対話的な学び



【教師の働きかけ】

創作の学習において、俳句をもとにイメージした情景を音で表現する場面では、音のつながり方を実感できるようにレコーダーでの演奏活動を取り入れていました。

実際に演奏させることで、順次進行や跳躍進行などの音のつながり方の特徴を知覚させ、視覚と聴覚の両面を活用してイメージできるようにしました。

【生徒の変容】

生徒は自身のイメージを生かして旋律をつくるとともに、友達のつくった旋律の特質や雰囲気をも音で知覚・感受することで、互いの表現の意図や言葉の抑揚と旋律の関わりについて考えを深める姿が見られました。

活動の設定



【中学校】美術

実践校【神川町立神川中学校】【深谷市立川本中学校】

対話的な学び

考えを広げ深めるための支援



【教師の働きかけ】

教師は、身近な本の表紙をデザインする学習活動を取り入れることで、美術と社会の繋がりを考える入口としました。造形の要素となるポイントを絞って示したことにより、発想が明確になり、生徒の話合いもスムーズに進めることができました。また、制作のゴールをよりイメージしやすくするために、本を手にする年代（読み手）を設定する工夫をしました。

【生徒の変容】

デザインソフトの共同編集機能を使うことで、自分の考えやイメージをリアルタイムで班のメンバーに提示する姿が見られました。メンバーの意見をすぐに作品に反映することで、意見交換がより活発になり、イメージを共有、変化させる生徒の姿が見られました。

深い学び

深く思考するための支援の工夫



【教師の働きかけ】

教師は、制作するだけでなく、自分の作った作品を誰に贈るのかをイメージさせることにより、自己と他者、制作のその先を考えさせていました。制作がゴールではなく、「続いていくもの」という意識を持たせることで、さらに深い学びにつなげていました。また、3年間の見通しを示すことで、生徒に今後の制作イメージを持たせることができました。

【生徒の変容】

学ぶ意欲をはぐくむ授業づくりとして、どの生徒もわかる授業、興味を持てる授業を設定することで、「わかった」「できた」と生徒が実感でき、さらに深く知りたい学びたいと感じている生徒の姿が見られました。



【中学校】技術

実践校【神川町立神川中学校】【上里町立上里北中学校】

対話的な学び

考えの交流



【教師の働きかけ】

各自が栽培目的を設定した栽培計画を立案する場面において、教師は目的が同じ生徒同士でグループをつくり、課題解決策の構想をまとめさせる時間を設けました。

本時では栽培計画を立てることが目的でしたが、机上の空論とならないよう、その後の育成活動も見据えて、実行性もふまえた検討を生徒に行わせていました。

【生徒の変容】

教師は、グループ内での話合いで自分の考えを交流させる機会を多く設けていました。交流する中で「もう一回調べていい?」という生徒の声も聞こえ、よりよい栽培計画となるよう改善・修正している姿が見られました。

深い学び

社会との関連



【教師の働きかけ】

生活や社会における問題を不便日記という形で生徒に考えさせることで、日常の問題意識を捉えやすくさせていました。教師は、プログラミングのフローチャートを活用できるようにし、不便を解決する方法を考えさせていました。「もっと楽しく」や「もっと楽にする」方法を考えるという、生徒にとって捉えやすい表現で授業を展開していました。

【生徒の変容】

生徒は、試行錯誤しながらプログラミングを行っていました。一人一台端末を活用してグループ活動をすることで、生徒同士で意見を交流しながら課題に対しての最適解を見つけようと取り組む生徒の姿が見られました。



【中学校】家庭

実践校【秩父市立影森中学校】【熊谷市立大里中学校】

主対的な学び

目的の明確化



【教師の働きかけ】

「日常着の補修の仕方」では、教師は、スナップボタンが「どこに」「どのように」縫われているのかを問うことで、学習の必要性を高めました。また、デジタル教材を活用し、動画で一連の流れを繰り返したり、手元を実写投影機で拡大したりし、ポイントをいつでも見られるように示すことで、生徒が進んで取り組むことができるようにしました。

【生徒の変容】

スナップボタン付けに取り組む中では、スピードやつまずきに大きな差が見られましたが、生徒は、各自でデジタル教材を活用しながら、ポイントを再確認し、自分で解決しようとする姿が見られました。教師が個別に支援する時間が増えたことで、生徒は活動に積極的に取り組んでいました。

深い学び

日常との関連



【教師の働きかけ】

「消費生活・環境」の金銭の管理と購入に関する学習で、生徒自身の消費行動の問題を見いださせる場面において、教師は、生徒の日常に合わせて消費行動について触れました。多機能ボールペンを購入する場面を設定し、商品の知りたい情報を生徒から引き出し、実物に触れながら情報収集させ、自身の消費行動について思考させていました。

【生徒の変容】

生徒の日常生活を軸に授業展開をすることにより、自分ごとと捉えて学習に向かう姿が見られました。生徒は多くの情報から自身が重視する観点で商品を選択し、その根拠を見方・考え方を踏まえて述べる姿が見られました。



【中学校】体育

実践校【長瀬町立長瀬中学校】【横瀬町立横瀬中学校】

主体的な学び

思いに沿った課題設定



【教師の働きかけ】

教師は「相手を尊重しながら技ができる達成感や喜びを味わえるようにしよう。」と単元を貫く問いを立て、明確な目的意識をもたせながら積極的に取り組ませていました。グループで互いの動きについて出来栄や称賛の声をかけながら、本時の活動につながる動きを獲得しようとしている生徒の姿が見られました。

【生徒の変容】

学習カードにある正しい袈裟固めの技のポイントや、抑え込みの3つの条件を満たして相手を抑え込んでいるかどうかについて、グループで互いに学び合いながら主体的に技能の向上を目指して取り組む姿が見られました。

深い学び

既習事項の活用



【教師の働きかけ】

「どうすれば技がよりうまくできるようになるのか」と問いかけたり、工夫された教具を活用したりすることで、生徒に試行錯誤させながら技に取り組ませていました。その際、釣り手・引き手の使い方を考えながら、技の原理を理解させることで、課題解決に向けての探究的な学習につなげていました。

【生徒の変容】

教具を活用しながら、釣り手・引き手をどのように使えば正しく崩して投げられるか、仲間との対話を通して技の原理を理解しようとする深い学びへ変容していく姿が見られました。



【中学校】 外国語

実践校【秩父市立荒川中学校】【神川町立神川中学校】

対話的な学び

対話内容の工夫



【教師の働きかけ】

単元の目標や本時の学習課題を意識して学習させるために、教師は生徒とのやり取りを通して思いや考えを引き出し、その後の生徒同士で行う言語活動につなげていました。

本時の目標に沿った中間指導や言葉かけ、「個⇄ペア⇄全体」といった学習形態の工夫などを行い、コミュニケーションを活発にさせていました。

【生徒の変容】

生徒の思いや考えを表出させ、共有する機会・時間を適時適切に入れることで、他の生徒のよさ（言語面・内容面）を自分に取り入れてやり取りしようとする生徒の姿が見られました。

深い学び

活動内容の工夫



【教師の働きかけ】

教師は、「自分がしている活動に友達を誘う」という言語活動の中で、「神川中では2つの部活動に所属できるようになった。各部の活動は週3回まで。活動する曜日を決めて、友達を勧誘しましょう。」と設定を加えることで、生徒の思考を促し、相手の好みや都合を考慮しながらやり取りさせていました。

また中間指導を適切に行い、「よいモデルを広める」「別の表現に言い換えさせる」「No が返ってきた時の応答を考えさせる」などして、より深く考えを形成させていました。

【生徒の変容】

具体的な目的・場面・状況等が設定されたことで、より主体的に対話活動に取り組み、中間指導を通してアイデアや自分が使う表現の幅を広げる生徒の姿が見られました。



【中学校】特別の教科 道徳

実践校【寄居町立男衾中学校】【深谷市立豊里中学校】

対話的な学び

発問・発言場面の工夫



【教師の働きかけ】

教師は、生徒同士が活発に意見交流できるように、少人数で話し合いをさせるとともに、他者の意見も視覚的に触れることができるようにホワイトボードに記入させていました。教師は各グループに積極的に関わり、効果的な問い返しや切り返しをすることで活発な対話を促していました。少人数での話し合い後、多様な意見を全体で共有しました。

【生徒の変容】

生徒は、自分とは異なる他者の意見に触れたり、教師の問い返し・切り返しをしたりすることにより、人間の弱さを実感するとともに自分の考えを深めたり、広げたりする姿が見られました。

深い学び

活動の工夫



【教師の働きかけ】

教師は、生徒が自分自身とじっくりと向き合い、自己の生き方について深く考えられるように、終末の時間をしっかりと確保しました。ワークシートに自分の考えを記入させた後、列ごとにワークシートを交換し、多様な意見にふれさせていました。そして、新たな気づきがあった考えに赤線を引かせることで、道徳的価値について多面的・多角的に考えられるようにしていました。

【生徒の変容】

生徒は、他者のワークシートを見ることで、自分との考えの違いに気付いたり、他者の考えに共感したり、自己の生き方についての考えを深めたりする姿が見られました。



【中学校】総合的な学習の時間

実践校【皆野町立皆野中学校】【本庄市立本庄南中学校】

主体的な学び

変容の自覚



【教師の働きかけ】

「皆野町の未来を創造しよう～地域の課題を解決し、住み続けられる町づくりを実現しよう～」を単元のゴールとし、教師は、町長への提言やその後の未来について、町役場職員、地域・大学生をはじめ様々な方々と年度当初からディスカッションを重ねる機会を設けることで、よりよい町づくりに向けて年間を通して新たな見方・考え方、課題を発見させたり、気付かせたりしていました。

【生徒の変容】

話し合いの記録や1人1台端末などを使って学習したことを振り返ることで、協議を通して得られた学びや、授業前後で自身の考えの変容を感じ取っている生徒の姿が見られました。

対話的な学び

教材の工夫



【教師の働きかけ】

教師は、実際の避難所等の写真を示し、グループ活動を通して、多様な観点から考えられるようにしていました。まず、各自で課題を1つ1つ付箋に記入させました。次にグループとなり、各自で考えた課題を出し合わせ、類型化させることで、対話を通して異なる視点を獲得する活動を位置付けました。

【生徒の変容】

資料をもとにグループで考えた課題を出し合う中で、個人では気付かなかった課題に目を向けることができ、自分たちがどのような活動をしたらよいか、どんな活動ができるかについて意欲的に考える生徒の姿が見られました。

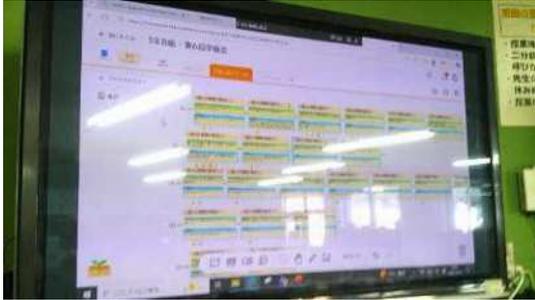


【中学校】特別活動

実践校【小鹿野町立小鹿野中学校】【本庄市立本庄東中学校】

主体的な学び

議題等の事前周知



【教師の働きかけ】

「事前の活動」の場面で、教師は、議題、提案理由、決まっていること、話合いの柱を、学級会ノートや学級会コーナーで把握できるようにしていました。また、1人1台端末を活用して、自分の考えを事前に表現できるようにすることで、当事者意識をもち、本時の学習に臨むことができるようになっていました。

【生徒の変容】

「事前の活動」を充実させることで、話し合う目的を十分に理解し、当事者意識を高めるとともに、級友の発言をよく聴き、建設的な意見を率先して出し合うなど、主体的に話し合い活動に取り組む生徒の姿が見られました。

対話的な学び

話合いの工夫



【教師の働きかけ】

「話合い」の場面において、教師は、「話合いのグランドルール」を確認し、手順や心構えを指導していました。また、ワークシートの工夫、教材や資料（人権感覚育成プログラム）の工夫、思考ツールの活用など、話合いがより効果的に行えるよう指導していました。

【生徒の変容】

資料をもとに話し合いを行うことで、学習課題を多面的・多角的に捉え、自身の考えを深める様子が見られました。それぞれのグループで深めた意見が学級全体で共有されるとともに、授業の終末では、自分自身のこれまでの生き方・在り方を見つめなおし、今後の学びや生活の向上について、意思決定する姿が見られました。

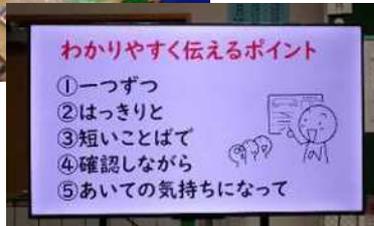


【中学校】特別支援教育

実践校【本庄市立本庄東中学校】【深谷市立南中学校】

対話的な学び

実態に合わせた指導



【教師の働きかけ】

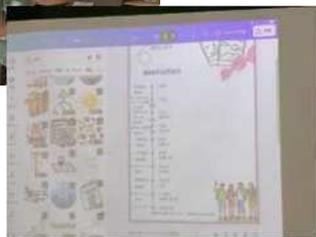
教師は、相手に伝えるポイントをわかりやすくまとめて、生徒が困ったときにいつでも見て確認できるように大型モニターで提示していました。「伝える」こと的手段としてブロックを使い、ゲームの要素を取り入れることで、生徒の興味を引き出していました。また、伝える情報も統一できるようにブロックの種類を写真で示すことにより、視覚情報でもフォローがあるので、安心して取り組ませていました。

【生徒の変容】

自分の伝えたことが相手に理解され、正しく伝わることで生徒は達成感と満足感を得ることができていました。どう伝えればより相手に伝わるのかの工夫を、自分たちで考え、話し合いを活発にさせていく姿が見られました。

深い学び

学ぶことの楽しさへの気付き



【教師の働きかけ】

生徒の興味を引き出すために、ゴールまでのステップを段階的に設定していました。生徒の実態に合わせ、ICT の利活用を積極的に行い、楽しく学習に取り組ませていました。また、デザインソフトの共同編集を使用することにより、考えを即座に共有でき、よりよいデザイン作成につなげていました。

【生徒の変容】

授業の導入から前時までに学んだ内容について、楽しみながら振り返る生徒の姿が見られました。本時で学習したことを次の時間の学習内容につなげることで、単元ゴールまでのイメージを持って学習する生徒の姿が見られました。